



(様式第 10)

高大医医第 28 号
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

高知大学医学部附属病院長 横山 彰仁

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
氏 名	国立大学法人高知大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

高知大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮185番地1 電話(088)-866-5811

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> ②医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 神経内科	
診療実績 (該当なし)	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有・無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 心臓血管外科 3 形成外科	
診療実績 (該当なし)	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有・無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制 本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制の元に歯科診療を行っている。現在、常勤歯科医師4名、非常勤歯科医師13名が従事しており、平成26年度は1日あたり外来患者84.2人、入院患者9.1人の歯科診療を行っている。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	583床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	182人	146人	300.5人	看護補助者	61人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	13人	14.6人	理学療法士	12人	臨床検査技師	47人
薬 剤 師	29人	0人	29人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助 産 師	10人	3人	12.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	509人	79人	582.1人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	2人	2人	栄 養 士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	0人	6人	6人	歯科技工士	2人	事務職員	165人
管理栄養士	8人	2人	10人	診療放射線技師	28人	その他の職員	50人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	31人	眼科専門医	11人
外科専門医	18人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	13人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	11人	整形外科専門医	10人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	7人
産婦人科専門医	9人	救急科専門医	2人
		合 計	156人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	449.9人	9.1人	459.0人
1日当たり平均外来患者数	929.1人	84.2人	1,013.3人
1日当たり平均調剤数	786剤		
必要医師数	103人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	16人		
必要(准)看護師数	264人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m ² 254.442	鉄筋コン クリート	病床数	12床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 105.85m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数 6床			
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬務室・薬品情報室					
化学検査室	584m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 自動血球計数装置 塗沫標本作製装置 血液凝固測定装置 全自動生化学分析装置 自動免疫化学測定装置 血液ガス分析装置 血糖測定装置 ヘモグロビンA1C測定装置 酵素免疫測定装置 肝炎ウイルス関連検査			
細菌検査室	142m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 炭酸ガス培養装置 孵卵器 自動細菌検査装置 自動血液培養装置 嫌気培養装置 安全キャビネット 高圧蒸気滅菌器			
病理検査室	223m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) ドラフトチャンバー			
病理解剖室	64m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 陰圧室、解剖台			
研 究 室	4996m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 流し台、実験台			
講 義 室	613m ²	鉄筋コン クリート	室数 3室	収容定員 558人		
図 書 室	897m ²	鉄筋コン クリート	室数 7室	蔵書数 13万冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日		
紹介率		72.7%	逆紹介率	58.8%
算出根拠	A: 紹介患者の数	10,166人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,529人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	377人		
	D: 初診の患者の数	14,486人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
硬膜外自家血注入療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であつて、HER2が陰性のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	66人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	13人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	32人	・原発性胆汁性肝硬変	23人
・全身性エリテマトーデス	146人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	35人
・再生不良性貧血	19人	・混合性結合組織病	26人
・サルコイドーシス	93人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	15人	・特発性間質性肺炎	9人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	169人	・網膜色素変性症	16人
・特発性血小板減少性紫斑病	46人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	31人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	63人	・神経線維腫症	5人
・大動脈炎症候群	8人	・亜急性硬化性全脳炎	3人
・ビュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	14人	・慢性血栓性肺高血圧症	7人
・脊髄小脳変性症	33人	・ライソゾーム病	8人
・クローン病	31人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	12人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	65人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	11人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・後縦靭帯骨化症	63人	・肥大型心筋症	11人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	9人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	2人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	37人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	11人	・黄色靭帯骨化症	9人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	41人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・新生児特定集中治療室退院調整加算
・歯科外来診療環境体制加算	・救急搬送患者地域連携受入加算
・歯科診療特別対応連携加算	・総合評価加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科)	・特定集中治療室管理料1
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・救急医療管理加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・診療録管理体制加算2	・小児入院医療管理料2
・急性期看護補助体制加算	・入院時食事療養/生活療養(I)
・看護職員夜間配置加算	・
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・植込型除細動器移行期加算	・検体検査管理加算(I)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(IV)
・糖尿病合併症管理料	・植込型心電図検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料1	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料2	・ヘッドアップディスプレイ試験
・がん患者指導管理料3	・人工臍臓
・糖尿病透析予防指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・夜間休日救急搬送医学管理料	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・外来リハビリテーション診療料	・神経学的検査
・外来放射線照射診療料	・補聴器適合検査
・ニコチン依存症管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・開放型病院共同指導料	・内服・点滴誘発試験
・地域連携診療計画管理料	・センチネルリンパ節生検(併用)
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(単独)
・がん治療連携管理料	・画像診断管理加算1
・認知症専門診断管理料	・画像診断管理加算2
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層撮影
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料1	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料2	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・大腸CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・外来化学療法加算1

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

2/3

施設基準の種類	施設基準の種類
・無菌製剤処理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・がん患者リハビリテーション料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・集団コミュニケーション療法料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的冠動脈形成術
・精神科作業療法	・経皮的冠動脈ステント留置術
・医療保護入院等診療料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・一酸化窒素吸入療法	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・う蝕菌無痛の窩洞形成加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・CAD/CAM冠	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・手術時歯根面レーザー応用加算	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・歯科技工加算	・補助人工心臓
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・経皮的大動脈遮断術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ダメージコントロール手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・腹腔鏡下肝切除術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・羊膜移植術	・膀胱水圧拡張術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

3/3

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・輸血適正使用加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・抗悪性腫瘍剤感受性検査(CD-DST法)	・
・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	・
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 10例 / 剖検率 5.29%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

1/4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
AFP産生を伴う肝細胞増殖の制御機構解明を通じたNASHにおける肝発癌抑制	西原 利治	消化器内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	西原 利治	消化器内科学	3,000,000	補委 東京大学
非アルコール性脂肪肝炎の肝病態におけるインクレチン作用機序の解明	岡本 宣人	光学医療診療部(消化器)	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
低分子量Gタンパク質の腫瘍浸潤・転移への関与	岩崎 信二	消化器内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
NASH発症における自然免疫防御反応とKupffer細胞の機能分化の解析	小野 正文	消化器内科学	2,470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
AGE-RAGE系とレニン・アンギオテンシン系を介したNASH肝線維化メカニズム	廣瀬 享	消化器内科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
オートファジー調節による尿細管脱分化と尿中再生マーカーを使う急性腎障害の再生医学	寺田 典生	内科(内分泌代謝・腎臓)	2,730,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法に関する研究	寺田 典生	内科(内分泌代謝・腎臓)	1,000,000	補委 新潟大学
腎疾患におけるオートファジーとサーチュインの病態への関与と新規治療薬の開発	島村 芳子	内科(内分泌代謝・腎臓)	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
糖質コルチコイド過剰により惹起される過食・肥満形成メカニズムの解明	中山 修一	内科(内分泌代謝・腎臓)	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
甲状腺癌細胞における細胞内エネルギー/糖代謝調節機構の解明と抗腫瘍治療戦略の構築	田口 崇文	内科(内分泌代謝・腎臓)	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エクソソーム内microRNAを活用した次世代腎臓病バイオマーカーと治療法の開発	堀野 太郎	内科(内分泌代謝・腎臓)	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
グルココルチコイドによる耐糖能障害におけるTBP-2の役割の解明	藤本 新平	内科(内分泌代謝・腎臓)	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
IgG4関連疾患の新規診断法の確立、病態解明、その腫瘍化の検討	谷口 義典	内科(内分泌代謝・腎臓)	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
急性腎障害のミトコンドリア機能保護とオートファジーによる新規治療法の開発	緒方 巧二	内科(内分泌代謝・腎臓)	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	横山 彰仁	内科(血液・呼吸器)	600,000	補委 国立感染症研究所 感染症疫学センター
ヒトMUC1発現マウスを用いた肺障害モデルにおけるバイオマーカーの動態解析	窪田 哲也	内科(血液・呼吸器)	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
悪性腫瘍における新規癌ウイルス感染実態の解析と発癌との関連について	谷口 亜裕子	内科(血液・呼吸器)	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
トロンボモジュリン変異体による新規血管内皮保護薬の開発	池添 隆之	内科(血液・呼吸器)	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
テラスパニンCD82を標的とした新規白血病治療法確立のための基礎研究	西岡 千恵	内科(血液・呼吸器)	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
トロンボモジュリン由来新規ペプチドによる骨髄移植後合併症の新規予防注射役の開発	池添 隆之	内科(血液・呼吸器)	7,675,200	補委 独立行政法人科学技術振興機構
難治性筋疾患の疫学・自然歴の収集および治療開発促進を目的とした疾患レジストリー研究	古谷 博和	内科(老年病・循環器・神経)	400,000	補委 独立行政法人国立神経・精神医療研究センター
肥大型心筋症の病因遺伝子解析と病態修飾因子の解明	久保 亨	内科(老年病・循環器・神経)	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
深部脳刺激による起立性低血圧の治療	弘田 隆省	内科(老年病・循環器・神経)	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
病初期・未治療パーキンソン病における非運動症状と脳機能画像の追跡	大崎 康史	内科(老年病・循環器・神経)	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

小計

44,655,200

小計 25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
EBウイルス感染に伴い発現変化するBリンパ腫細胞遺伝子の網羅的解析	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エピジェネティクスと組織化学的手法によるPTSDの病態解明と予防法の開発	森信 繁	神経精神科学	3,510,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
DNAメチル化修飾に着目したうつ病のマーカー作成-双極、単極、治療抵抗性うつ病の識別をレピー小体型認知症の神経基盤	森信 繁	神経精神科学	1,100,000	補委 徳島大学
変化に着目した認知症患者運動能力評価法の構築	上村 直人	神経精神科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
認知症のための縦断型連携パスを用いた医療と介護の連携に関する研究	上村 直人	神経精神科学	750,000	補委 熊本大学
思春期のうつ病の早期発見と心理教育	下寺 信次	神経精神科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
精神疾患患者に対する早期介入とその体制の確立のための研究	下寺 信次	神経精神科学	1,000,000	補委 東邦大学
家族への心理教育がうつ病の予後を改善させる効果の検討	藤田 博一	神経精神科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
乾癬の発症に関与する皮膚バリア障害	中島 喜美子	皮膚科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
乾癬の重症度に相関する新たな分子LRGの役割:乾癬及びマウスモデルでの解析	中島 英貴	皮膚科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
再プログラム因子導入による間葉上皮移行の誘導と癌浸潤の制御	高石 樹朗	皮膚科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
乾癬に関わるランゲルハンス細胞の役割:モデルマウスを用いた解析	山本 真有子	皮膚科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
尋常性乾癬から関節症性乾癬への移行予測因子の解析	高橋 綾	皮膚科	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マウスモデルをプラットフォームとした乾癬の分子標的薬スクリーニングの確立	寺石 美香	皮膚科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
IL-36シグナルを介した表皮細胞-樹状細胞間クロストークによる乾癬発症機序解明	大湖 健太郎	皮膚科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
子宮筋腫に対する凍結療法における画像診断学及び組織学的検討	山上 卓士	放射線科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腫瘍内で過酸化水素を徐放する新規放射線増感剤の開発に関する実験的研究	小川 恭弘	放射線科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎癌に対する腎動脈閉塞下凍結療法の確立	吉松 梨香	放射線科	2,860,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腹部術後早期の起立性低血圧の予測とその予防デバイスの開発	北川 博之	外科(一)	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
人工臓器を用いた新しい血糖変動モデルの確立と血糖変動が生体に及ぼす病態の解明	花崎 和弘	外科(一)	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
3Dエコーガイドによる心拍動下心臓内手術の基盤技術の確立	渡橋 和政	外科(二)	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肺癌に対するPorphysome増感併用による気管支鏡下光温熱治療の開発	穴山 貴嗣	外科(二)	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Shaggy aortaに対する新たな治療法-メッシュグラフトの開発	福富 敬	外科(二)	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
輝度測定法を併用したICG血管造影法による術中血流評価技術の再開発	山本 正樹	外科(二)	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
BDNFエクソンをターゲットとする痛みの評価と遺伝子療法	横山 正尚	麻酔科学・集中治療医学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為に医療システム構築に関する研究	横山 正尚	麻酔科学・集中治療医学	500,000	補委 愛知医科大学
GLP-1の薬理活性を利用した新しい周術期血糖管理法の検討	河野 崇	麻酔科学・集中治療医学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

小計

40,660,000

小計 27

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
麻酔の認知機能に及ぼす基礎ならびに臨床研究	北岡 智子	麻酔科学・集中治療医学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
術中アミノ酸投与の大手術における術後筋萎縮予防効果に関する検討	矢田部 智昭	麻酔科学・集中治療医学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心音を用いたPEPの測定と循環管理への応用	山下 幸一	麻酔科学・集中治療医学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒト臍帯血幹細胞の機能解析と脳性麻痺治療への臨床応用	前田 長正	産科婦人科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
関節疾患におけるアシドーシス起因性疼痛と関節破壊のメカニズム	池内 昌彦	整形外科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
下肢末梢神経の低電流反復刺激法による腰部脊柱管狭窄症の新しい保存療法の開発	谷 俊一	整形外科学	390,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定	武政 龍一	整形外科学	800,000	補委 東京医科歯科大学
自己免疫性眼炎疾患における制御性T細胞の役割の解明	福島 敦樹	眼科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
バクテリオファージの溶菌活性を利用した細菌感染性眼疾患の新規治療法の開発	福田 憲	眼科	2,730,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
痙攣性発声障害に対するA型ボツリヌス毒素(ボツクス)の甲状腺披裂筋/後輪状披裂筋内局所注	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	63,746,000	補委 社団法人日本医師会
治験の実施に関する研究【A型ボツリヌス毒素】	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補委 社団法人日本医師会
メチシリン耐性ブドウ球菌の遺伝子解析による慢性中耳炎遷延化の病態解明と治療戦略	小森 正博	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
水代謝機構を標的とした新たなメニエール病のモデルと治療法の開発	小林 泰輔	耳鼻咽喉科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
温度感覚刺激、嗅覚刺激を介した新たな嚥下障害治療法の開発と嚥下機能の解明	松本 宗一	耳鼻咽喉科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
頭部外傷後のうつ病発症に関わるストレス感受性分子の同定とその機序の解明	東 洋一郎	脳神経外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
悪性脳腫瘍におけるゲノムグローバルなヒストン修飾制御因子の探索	八幡 俊男	脳神経外科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脱髄性疾患治療への臨床応用を目指したオリゴデンドロサイト分化機構の解析	政平 訓貴	脳神経外科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
悪性脳腫瘍の分化制御におけるメチル化CpG結合タンパクMBD1の機能的解析	上羽 哲也	脳神経外科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するベプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	上羽 哲也	脳神経外科学	1,000,000	補委 久留米大学
スピリリナを用いた悪性グリオーマに対する新たな免疫療法の開発	川西 裕	脳神経外科学	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
VHL病及び多発性内分泌腫瘍症の診療標準化と患者支援、新たな治療法開発の研究	執印 太郎	泌尿器科学	3,000,000	補委 国立保健医療科学院
乳頭状腎癌関連因子pCAMによる新たな分子病理学的分類と分化誘導療法の確立	辛島 尚	泌尿器科学	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
膀胱癌におけるヘムオキシゲナーゼ1の役割の解明と発現誘導による制癌効果の検討	井上 啓史	泌尿器科学	4,290,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血中のラミニンγ2単鎖をバイオマーカーとする膀胱癌の早期診断法の開発	執印 太郎	泌尿器科学	1,560,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
細胞競合に立脚した口腔扁平上皮癌の早期診断・予防方法の開発に向けた基礎的研究	山本 哲也	歯科口腔外科学	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
顎口腔系を介するストレス緩和機序のニューロイメージングによる解析	村田 智子	歯科口腔外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平苔癬発症におけるインフラマソームの関わり	北村 直也	歯科口腔外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

小計

105,816,000

小計 27

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
口腔癌における腫瘍関連マクロファージによる抗癌剤耐性機序の解明	笹部 衣里	歯科口腔外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
PRF+ナノアパタイトと脂肪幹細胞による顎骨再生療法の基礎研究	吉澤 泰昌	歯科口腔外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌における血清エクソソームを用いた診断法の開発	國藤 潤	歯科口腔外科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血小板活性化を伴うピロリ感染症の急性冠症候群への関与	杉浦 哲朗	病態情報診断学	520,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
感染・炎症に関連して発生する呼吸器腫瘍の病態および腫瘍化機構の解明	上岡 樹生	病態情報診断学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌固有の独自進化した細胞分裂システム(細胞死含)とその病原性の解明	竹内 啓晃	検査部	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌体膜蛋白による血小板活性化とマクロファージの免疫応答に関する解析	森本 徳仁	検査部	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血圧制御型自動ショックパンツの開発	山崎 文靖	検査部	4,022,200	補委 独立行政法人科学技術振興機構
脊髄損傷患者の歩容改善のためのリハビリテーション手技構築	細田 里南	リハビリテーション部	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
易転倒方向の個人差分析機器開発とその有用性の実証	永野 靖典	リハビリテーション部	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
筋電計による小殿筋の質的評価と小殿筋の選択的筋力強化方法の検討	室伏 祐介	リハビリテーション部	2,860,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
虚弱高齢者のための児童生徒参加型高齢者検診と運動器リハモデルに関する研究	永野靖典	リハビリテーション部	400,000	補委 黒潮町
ショウガを利用した嚥下機能改善品の開発	宮村 充彦	附属病院 薬剤部	13,187,160	補委 高知県

小計 31,649,360
合計 222,780,560

小計 13
合計 92

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Taniuchi K	光学医療診療部	KIF20A-mediated RNA granule transport system promotes the invasiveness of pancreatic cancer cells.	Neoplasia. 2014 ;16(12):1082-1093.
2	Taniuchi K	光学医療診療部	IGF2BP3-mediated translation in cell protrusions promotes cell invasiveness and metastasis of pancreatic cancer.	Oncotarget. 2014 ;5(16):6832-6845.
3	Taniuchi K	光学医療診療部	RUVBL1 directly binds actin filaments and induces formation of cell protrusions to promote pancreatic cancer cell invasion.	Int J Oncol. 2014 ;44(6):1945-54.
4	Taniguchi Y	内科(内分泌代謝・腎臓)	Serum levels of soluble urokinase plasminogen activator receptor in Japanese patients with chronic kidney disease.	Kidney Int. 2014 ;86(1):209-10.
5	Taniguchi Y	内科(内分泌代謝・腎臓)、泌尿器科	Clinical characteristics of Japanese patients with reactive arthritis following intravesical BCG therapy for bladder cancer.	Mod Rheumatol. 2015 ;25(1):161-3.
6	Taguchi T	内科(内分泌代謝・腎臓)	Images in clinical medicine. Subperiosteal bone resorption.	N Engl J Med. 2014 ;370(21):e32.
7	Ohnishi H	内科(血液・呼吸器)	Seasonal variation of serum KL-6 concentrations is greater in patients with hypersensitivity pneumonitis.	BMC Pulm Med. 2014 ;14:129.
8	Ohnishi H	内科(血液・呼吸器)	Life-threatening pulmonary lymphedema secondary to thoracic duct ligation.	Intern Med. 2014 ;53(20):2341-5.
9	Sakai M	内科(血液・呼吸器)	Successful re-administration of lenalidomide after lenalidomide-induced pulmonary alveolar hemorrhage in a patient with refractory myeloma.	Ann Hematol. 2015 ;94(5):891-2.
10	Ikezoe T	内科(血液・呼吸器)	Thrombomodulin alleviates murine GVHD in association with an increase in the proportion of regulatory T cells in the spleen.	Bone Marrow Transplant. 2015 ;50(1):113-20.
11	Noguchi T	内科(老年病・循環器・神経)	Donepezil can improve ischemic muscle atrophy by activating angiomyogenic properties of satellite cells.	Circ J. 2014;78(9):2317-24.
12	Ochi Y	内科(老年病・循環器・神経)	Repeated heart failure in a 74-year-old man with left ventricular hypertrophy.	Heart. 2014 ;100(9):710: discussion 742.
13	Tamaki W	周産母子センター(小児科)	Importance of evaluation of the right coronary artery by two-dimensional echocardiography in patients after Kawasaki disease: a right parasternal approach.	Heart Vessels. 2015 ;30(2):178-85.
14	Tamaki W	周産母子センター(小児科)	Emergency coronary artery bypass grafting for cardiogenic shock due to left main coronary artery obstruction caused by Kawasaki disease in a 4-year-old boy.	Pediatr Int. 2014 ;56(2):273-6.

15	Shimodera S	精神科	Change in quality of life after brief behavioral therapy for insomnia in concurrent depression: analysis of the effects of a randomized controlled trial.	J Clin Sleep Med. 2014 ;10(4):433-9.
16	Aoki N	皮膚科	A case of anti-BP180 type mucous membrane pemphigoid treated with intravenous immunoglobulin.	J Dermatol. 2014 ;41(6):557-9.
17	Nakajima K	皮膚科	Successful treatment of Schnitzler syndrome with cyclosporine.	Int J Dermatol. 2014 ;53(7):e361-3.
18	Sato K	皮膚科	Involvement of TNF- α converting enzyme in the development of psoriasis-like lesions in a mouse model.	PLoS One. 2014 ;9(11):e112408.
19	Yamamoto M	皮膚科	Psoriatic inflammation facilitates the onset of arthritis in a mouse model.	J Invest Dermatol. 2015 ;135(2):445-53.
20	Shiga T	皮膚科	TNF inhibitors directly target Th17 cells via attenuation of autonomous TNF/TNFR2 signalling in psoriasis.	J Dermatol Sci. 2015 ;77(1):79-81.
21	Nishioka A	放射線科	Safety and efficacy of image-guided enzyme-targeting radiosensitization plus intraoperative radiotherapy for locally advanced unresectable pancre center	Oncol Lett. 2014 ;8(1):404-408.
22	Iwasa H	放射線科	Early prediction of response to neoadjuvant chemotherapy in patients with breast cancer using diffusion-weighted imaging and gray-scale ultrasonography	Oncol Rep. 2014 ;31(4):1555-60.
23	Nishioka A	放射線科	Reduction of fibroproliferative changes in irradiated rat lung with soluble transforming growth factor-beta(TGF- β)receptor	Mol Med Rep. 2015 ;11(4):2659-63.
24	Hanazaki K	外科1	Perioperative intensive insulin therapy using an artificial endocrine pancreas with closed-loop glycemic control system: The effects of no hypoglycemia	Am J Surg. 2014 ;207(6):935-41.
25	Namikawa T	外科1	Successful preservation of the mesenteric and bowel circulation with treatment for a ruptured superior mesenteric artery aneurysm using the HyperEye Medical System	Am Surg. 2014 ;80(12):E359-61.
26	Namikawa T	外科1	Clinicopathological Characteristics and Therapeutic Outcomes of Synchronous Gastric Adenocarcinoma and Gastric Lymphoma	Anticancer Res. 2014 ;34(9):5067-74.
27	Namikawa T	外科1	Feasibility study of supportive care using lafutidine, a Histamine H2 receptor antagonist, to prevent gastrointestinal toxicity during chemotherapy for gastric cancer	Anticancer Res. 2014 ;34(12):7297-301.
28	Yatabe T	麻酔科	Energy expenditure measured using indirect calorimeter after minimally invasive esophagectomy in ventilated postoperative patients	Asia Pac J Clin Nutr. 2014;23(4):555-9.
29	Namikawa T	外科1	Simultaneous occurrence of gastric lipoma and early gastric cancer	Endoscopy. 2014 ;46 Suppl 1 UCTN:E338-9.
30	Namikawa T	外科1	Factors that minimize postgastrectomy symptoms following pylorus-preserving gastrectomy: assessment using a newly developed scale (PGSAS-45)	Gastric Cancer. 2015 ;18(2):397-406.

31	Namikawa T	外科1	Synchronous superficial spreading lesions of the stomach	Gut. 2014 ;63(7):1172, 1194.
32	Fukudome I	外科1	Diamine oxidase as a marker of intestinal mucosal injury and the effect of soluble dietary fiber on gastrointestinal tract toxicity after intravenous 5-fluorouracil treatment in rats	Med Mol Morphol. 2014 ;47(2):100-7.
33	Namikawa T	外科1	Clinicopathological features and treatment outcomes of metastatic tumors in the stomach	Surg Today. 2014 ;44(8):1392-9.
34	Namikawa T	外科1	Esophageal tumor after radical surgery for gastric cancer	Gastroenterology. 2015 ;148(4):e9-10.
35	Namikawa T	外科1	An Unusual Giant Duodenal Mass Lesion	Gastroenterology. 2015 ;148(5):e5-6.
36	Mibu K	看護部	Questionnaire survey on the use of a novel artificial pancreas by intensive care unit nurses	J Artif Organs. 2015 ;18(2):162-5.
37	Namikawa T	外科1	Transcatheter Arterial Embolization of Ruptured Inferior Phrenic Artery Pseudoaneurysm Following Completion Gastrectomy	J Gastrointest Surg. 2015 ;19(8):1561-2.
38	Taniuchi K	光学医療診療部	Peroxiredoxin 1 promotes pancreatic cancer cell invasion by modulating p38 MAPK activity	Pancreas. 2015 ;44(2):331-40.
39	Namikawa T	外科1	Recent advances in near-infrared fluorescence-guided imaging surgery using indocyanine green	Surg Today. 2015
40	Orihashi K	外科2	Intraoperative migration of open stent graft detected by transesophageal echocardiography : report of two cases.	Ann Vasc Dis. 2014 ;7(1):75-8.
41	Anayama T	外科2	Localization of pulmonary nodules using navigation bronchoscope and a near-infrared fluorescence thoracoscope.	Ann Thorac Surg. 2015 ;99(1):224-30.
42	Yamamoto M	外科2	Efficacy of intraoperative HyperEye Medical System angiography for coronary artery bypass grafting.	Surg Today. 2015 ;45(8):966-72.
43	Kawano T	麻醉科	Prolonged post-dural puncture headache in a patient during treatment with selective serotonin reuptake inhibitor:a case report and animal experiment.	J Anesth. 2014 ;28(6):937-9.
44	Kawano T	麻醉科	Effects of ketoprofen for prevention of postoperative cognitive dysfunction in aged rats.	J Anesth. 2014 ;28(6):932-6.
45	Kawano T	麻醉科	Preventive effects of multisensory rehabilitation on development of cognitive dysfunction following systemic inflammation in aged rats	J Anesth. 2014 ;28(5):780-4.
46	Yatabe T	麻醉科	Influence of desflurane on postoperative oral intake compared with propofol.	Asia Pac J Clin Nutr. 2014 ;23(3):408-12.

47	Tamura T	麻醉科	Current status of studies about optimal composition of amino acid and protein for ICU patients: systematic review.	Anaesth Intensive Care. 2014 ;42(6):806-7.
48	Kawano T	麻醉科	A preliminary study of patients' perceptions on the implementation of the WHO surgical safety checklist in women who had Cesarean sections.	J Anesth. 2015 ;29(3):459-62.
49	Takashi T	麻醉科	Effects of dexmedetomidine on insulin secretion from rat pancreatic β cells.	J Anesth. 2015 ;29(3):396-402.
50	Maeda N.	産科婦人科	Dienogest improves human leucocyte antigen-DR underexpression and reduces tumour necrosis factor- α production in peritoneal fluid cells from women with endometriosis.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2014 ;177:48-51.
51	Ikeuchi M	整形外科	Effects of dexamethasone on local infiltration analgesia in total knee arthroplasty: A randomized controlled trial.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2014 ;22(7):1638-43.
52	Sugimura N	整形外科	Repeated intra-articular injections of acidic saline produce long-lasting joint pain and widespread hyperalgesia.	Eur J Pain. 2015 ;19(5):629-38.
53	Kumon M	整形外科	Influence of tibial transectaneous repetitive electrical nerve stimulation on neurogenic claudication and F-wave in lumbar spinal stenosis.	J Rehabil Med. 2014 ;46(10):1046-9.
54	Sugimura N	整形外科	The dorsalis pedis artery as a new distal landmark for extramedullary tibial alignment in total knee arthroplasty.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2014 ;22(11):2618-22.
55	Ikeuchi M	整形外科	Effects of intra-articular hyaluronic acid injection on immunohistochemical characterization of joint afferents in a rat model of knee osteoarthritis.	Eur J Pain. 2015 ;19(3):334-40.
56	Okanoue Y	整形外科	Less invasive modified Spitzzy shelf procedure for patients with dysplasia of the hip.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2015 ;25(4):789-92.
57	Ishida W	眼科	Inhibition of very late antigen-4 and leukocyte function-associated antigen-1 in experimental autoimmune uveoretinitis.	Clin Immunol. 2014 ;153(1):136-44.
58	Fukushima A	眼科	Therapeutic effects of 0.1% tacrolimus eye drops for refractory allergic ocular diseases with proliferative lesion or corneal involvement.	Br J Ophthalmol. 2014 ;98(8):1023-7.
59	Fukushima A	眼科	Efficacy of olopatadine versus epinastine for treating allergic conjunctivitis caused by Japanese cedar pollen: A double-blind Randomized controlled trial.	Adv Ther. 2014 ;31(10):1045-58.
60	Ishida W	眼科	Oral immunotherapy for allergic conjunctivitis	Cornea. 2014 ;33 Suppl 11:S32-6.
61	Fukuda K	眼科	Inhibition by rebamipide of cytokine- or lipopolysaccharide-induced chemokine synthesis in human corneal fibroblasts	Br J Ophthalmol. 2014 ;98(12):1751-5.
62	Nishikubo K	耳鼻咽喉科	Quantitative evaluation of age-related alteration of swallowing function: Videofluoroscopic and manometric studies.	Auris Nasus Larynx. 2015 ;42(2):134-8.

63	Nonaka M	脳神経外科	Elevated cell invasion in a tumor sphere culture of RSV-M mouse glioma cells.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2015;55(1):60-70.
64	Higashi Y	脳神経外科	Suppression of oxidative stress and 5-lipoxygenase activation by edaravone improves depressive-like behavior after concussion.	J Neurotrauma. 2014 ;31(20):1689-99.
65	Takemura M	脳神経外科	A modified combined transseptal/transnasal binostril approach for pituitary lesions in patients with a narrow nasal space: technical note.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014 ;54(8):622-8.
66	Karashima T	泌尿器科	Novel combination therapy with imiquimod and sorafenib for renal cell carcinoma.	Int J Urol. 2014 ;21(7):702-6.
67	Fukuhara H	泌尿器科	IgG4-related tubulointerstitial nephritis accompanied with cystic formation.	BMC Urol. 2014 ;14:54.
68	Karashima T	泌尿器科	IgG4-related disease of the paratestis in a patient with Wells syndrome: a case report.	Diagn Pathol. 2014 ;9:225.
69	Nao T	泌尿器科	[Clinical study on patients with renal-cell carcinoma accompanied with Von Hippel-Lindau disease treated with radiofrequency ablation].	Hinyokika Kiyo. 2014 ;60(9):415-20.
70	Okamoto K	がん治療センター	Cetuximab and panitumumab in a patient with colon cancer and concomitant chronic skin disease: A potential beneficial effect on psoriasis vulgaris.	World J Gastroenterol. 2015 ;21(12):3746-9
71	Maeda H.	がん治療センター	Staged surgery after colonic decompression may be safer for the treatment of obstructive left-sided colorectal cancer in a non-specialized hospital.	Hepatogastroenterology. 2014 ;61(135):1938-41.
72	Morimoto N	検査部	Clinical Application of the DiversiLab Microbial Typing System Using Repetitive Sequence-Based PCR for Characterization of Helicobacter pylori in Japan	J Clin Lab Anal. 2015 ;29(3):250-3.
73	Tokuhiro S	検査部	Phosphagen kinase in Schistosoma japonicum: II. Determination of amino acid residues essential for substrate catalysis using site-directed mutagenesis.	Mol Biochem Parasitol. 2014 ;194(1-2):56-63.
74	Sugiura T	検査部	Autoimmunity and pulmonary hypertension in patients with Graves' disease.	Heart Vessels. 2014
75	Yagi Y	薬剤部	Outcome evaluation of an intervention to improve the effective and safe use of meropenem	Int J Clin Pharm. 2014 ;36(3):648-56.

小計 13

合計 75

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の構成、倫理委員会の運営、審査手順、有害事象対応、各種報告について、記録の保存・公表	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適切な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 対象者の範囲、マネージメントの対象、マネージメント委員会の設置、調査、資料の保存、学外への情報公開	
③ 利益相反を審査し、適切な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年10回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年11回
・ 研修の主な内容 臨床研究概論、研究デザイン、統計手法、臨床研究倫理、被験者保護、利益相反、データマネージメント、品質管理/品質保証、法規指針、等	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・ NASHに関するベザフィブレート治療・拡大大腸内視鏡の早期大腸癌診断・原発性胆汁肝硬変に対するベザフィブレート治療・原発性肝癌に対するラジオ波熱凝固療法・virtualsonographyを用いた肝癌の局所治療・難治性関節リウマチに対する生物製剤治療・難治性膠原病に対する血液浄化療法・甲状腺穿刺細胞診・内分泌負荷試験の実施・経皮的腎生検・持続皮下インスリン注入療法 (CSII)の導入・持続血糖測定装置 (CGMS)の実施・間質性肺炎に対するpirfenidone療法・超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査・超音波気管支鏡を用いた経気管支リンパ節吸引細胞診検査・ナビゲーションシステムを用いた気管支鏡検査・同種骨髄移植・自家末梢血幹細胞移植・骨髄採取術・DICの診断、治療・冠動脈インターベンション・心臓超音波検査・カテーテルアブレーション・小児腎生検・小児腹膜透析・亜急性硬化性全脳炎に対するIfn, TRH療法・小児心臓カテーテル検査・治療抵抗性うつ病に対する修正型パルス波電気けいれん療法・治療抵抗性統合失調症に対する修正型パルス波電気けいれん療法・乾癬に対する生物学的製剤による治療・エキシマランプによる円形脱毛症の治療・多発性円形脱毛症に対するミニパルス療法・病理勉強会・英文研究論文抄読会・紫外線発癌におけるタクロリムス軟膏の影響・乾癬とメタボリックシンドロームの関与・質量分析イメージングを用いた皮膚生体内分子の局所解析・膠原病皮膚病変に対するヒドロキシクロキノンの臨床評価・中性脂肪蓄積心血管症の診断法の確立・非侵襲的冷却脂肪溶解術の臨床効果の検討・ベセルナクリーム外用治療の自己免疫疾患に与える影響の検討・バズパニブによる血管肉腫の治療・ニボルマブによる悪性黒色腫の治療・ベムラファニブによる悪性黒色腫の治療・胃癌に対する腹腔鏡下手術・食道癌に対する胸腔鏡下手術・大腸癌に対する腹腔鏡下手術・原発性肝癌に対する広範囲肝切除・膵癌に対する膵頭十二指腸切除・乳癌に対するセンチネルリンパ節生検・血管の露出、遮断、切開、吻合手技・心タンポナーデの手術適応判断と心嚢ドレナージ手術・末梢動脈疾患に対する血管内治療・急性動脈閉塞症の鑑別診断と緊急血栓摘除術・ペースメーカー植込み手術・超音波気管支鏡下縦隔リンパ節生検・抗がん剤感受性試験を用いたオーダーメイドがん化学療法・3DCT画像を応用した対表イメージングによる低侵襲手術・完全内視鏡下胸部外科手術・区域麻酔・侵襲時のHES・小児における超音波による硬膜外腔の確認方法・周術期神経合併症とその予防策・周術期心筋保護をいかに達成するか・急性血液浄化の現状と当院におけるOn-lineCHDFの臨床・婦人科骨盤腔内視鏡下手術・閉経女性における虚血性心疾患の発症予防を目的としたホルモン補充療法・体外受精・子宮内膜症の免疫学的診断・高齢者の頸部脊髄症に対して電気診断に基づいて行うピンポイント手術・ナビゲーションシステムを用いた上位頸椎部スクリュー固定・頸椎後縦靭帯骨化症に対する顕微鏡視下前方除圧固定術・腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術・骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する小皮切ペースト状人工骨充填術・臀筋を侵襲しない前方アプローチ人工股関節手術・股関節臼蓋形成不全に対する低侵襲棚形成術・転移性骨腫瘍に対するMRガイド下収束超音波治療・末梢神経電気刺激法による術中DVT予防法・手根管症候群の内視鏡手術・膝靭帯損傷に対する関節鏡下靭帯再建術・涙道内視鏡手術・加齢黄斑変性に対する光線力学的療法・眼内内視鏡を用いた硝子体手術・鼓室形成術・内視鏡下鼻内副鼻腔手術・音声機能検査および音声外科手術・嚥下機能検査 (嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査など)・頭頸部癌手術 (喉頭摘出術、頸部郭清術など)・嗅覚機能検査・脳動脈塞栓術・解離性脳動脈瘤塞栓術・内頸動脈-海綿静脈洞瘻塞栓術・持続脳室ドレナージ下の脳圧モニタリング・術中標本からのRNA抽出・ニューロナビゲーションを用いた開頭腫瘍摘出術・内頸動脈狭窄症に対するステント留置術・遺伝性腎癌の遺伝子診断・前立腺癌の密封小線源永久挿入療法・前立腺癌の高線量率組織内照射療法・前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術・膀胱癌の光学的診断・頭頸部癌に対するリザーバー留置超選択的動注療法・インプラント・災害医療研修・進行大腸癌に対するD3リンパ節郭清を伴う腹腔鏡下補助下手術・胃癌に対する腹腔鏡補助下手術・腹腔鏡下胃切除術における体内吻合術・単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術

2 研修の実績

研修医の人数	50人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小野 正文	第一内科	准教授	24年	
岩崎 信二	第一内科	准教授	28年	
廣瀬 享	第一内科	助教	15年	
水田 洋	第一内科	助教	16年	
寺田 典生	第二内科	教授	30年	
西山 充	第二内科	准教授	21年	
藤本 新平	第二内科	教授	23年	
大西 広志	第三内科	助教	17年	
窪田 哲也	第三内科	准教授	23年	
砥谷 和人	第三内科	講師	22年	
池添 隆之	第三内科	講師	21年	
谷岡 克敏	老年病科	助教	17年	
馬場 裕一	老年病科	助教	18年	
弘田 隆省	老年病科	助教	15年	
藤枝 幹也	小児科	教授	30年	
山本 雅樹	小児科	助教	16年	
森信 繁	精神科	教授	32年	
佐野 栄紀	皮膚科	教授	31年	
山上 卓士	放射線科	教授	24年	
花崎 和弘	外科一	教授	30年	
杉本 健樹	外科一	准教授	29年	
並川 努	外科一	講師	23年	
北川 博之	外科一	助教	11年	
岡本 健	外科一	講師	22年	
西森 秀明	外科二	准教授	27年	
山本 正樹	外科二	助教	14年	
穴山 貴嗣	外科二	講師	18年	
横山 正尚	麻酔科	教授	33年	
泉谷 知明	産科婦人科	講師	21年	
池上 信夫	産科婦人科	講師	22年	
前田 長正	産科婦人科	教授	29年	
池内 昌彦	整形外科	教授	19年	
福島 敦樹	眼科	教授	24年	
兵頭 政光	耳鼻咽喉科	教授	31年	
小林 泰輔	耳鼻咽喉科	准教授	27年	
上羽 哲也	脳神経外科	教授	26年	
執印 太郎	泌尿器科	教授	38年	
井上 啓史	泌尿器科	准教授	25年	
山崎 一郎	泌尿器科	講師	22年	
山本 哲也	歯科口腔外科	教授	29年	
長野 修	救急科	教授	33年	
小林 道也	がん治療センター	教授	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 横山 彰仁
管理担当者氏名	総務企画課長 高橋 聡 医療安全管理部長 兵頭 政光 医事課長 都築 泰仁 薬剤部長 宮村 充彦 放射線部長 山上 卓士

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書	医事課（カルテ 室）及び薬剤部 並びに放射線部	カルテ等病歴資料は、外来・入院 別に一患者一ファイル方式とし、 エックス線写真は一患者一ファ イル方式で共にコンピュータによる 集中管理を行っている。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	総務企画課
	高度の医療の研修の実績	総務企画課
	閲覧実績	総務企画課
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課
入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	会計課及び 薬剤部	
第規 一則 号第 一掲 条 の 十 体 一 制 第 一 確 項 保 各 の 号 状 及 び 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理の ための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理の ための委員会の開催状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理の ための職員研修の実施状 況	医療安全管理部
	医療機関内における事 故報告等の医療に係る安 全の確保を目的とした改 善のための方策の状況	医療安全管理部
	専任の医療に係る安全 管理を行う者の配置状況	医療安全管理部
	専任の院内感染対策を 行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行 う部門の設置状況	医療安全管理部
	当該病院内に患者から の安全管理に係る相談に 適切に応じる体制の確保 状況	医事課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 西村 仁秀
閲覧担当者氏名	総務企画課長 高橋 聡
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を申請する場合は、閲覧申請書を総務企画課に提出する。 諸記録の閲覧を許可した場合は、閲覧許可書を交付のうえ、閲覧場所において閲覧を行うようにしている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 安全管理に関する基本的考え方（安全管理の体制確保という総合的観点から）・ 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項・ 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針・ 医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針・ 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ 患者さんからの相談への対応に関する基本方針・ 医薬品と医療機器安全管理に関する基本方針・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：（リスクマネジメント代表者会議規則）</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則（平成16年5月26日施行）第3条に定める事項(2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関する事(3) 判定した影響度レベルが3b以上のものについて、医療問題調査委員会への報告に関する事(4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関する事(5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関する事(6) 研修会等の企画・立案に関する事(7) 協議事項の結果をリスクマネジメント担当者会議に周知徹底する事(8) その他安全管理に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年32回
<p>・ 研修の主な内容：（全職員を対象に下記のテーマで計32回開催した）</p> <p>「院内急変対応」 「医療安全の基本」（同内容 3回） 「インシデント報告2013」（同内容 2回） 「インシデントレポートが重要なわけとは？」（同内容 3回） 「新規（中途）採用医師に対する医療安全管理研修会」（同内容 2回） 「患者さんや家族からの暴力・暴言対応」 「安全・安心な医療」（同内容 5回） 「臓器移植とは？臓器の提供って？」（同内容 2回） 「医療ガスの事故例、医療ガスの正しい取り扱い方」 「平成26年度上半期インシデント報告」（同内容 2回） 「薬剤に関する研修会」（同内容 2回） 「チームでのコミュニケーション」（同内容 2回） 「医療安全の基本」 「自殺予防のために知っておきたいこと～ポストベンションを中心に～」 「どうしていますか？患者確認！」 「脳死下臓器提供発生時の実際の流れ」 「医療事故調査制度について」 「投薬事故防止のために」</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事例の分析を行い、事例に対応する事故防止のための研修会の開催、マニュアルの改定 ・ 医療機器の不具合情報、医薬品による副作用報告等を医薬品医療機器総合機構 (PMDA) に報告する。 ・ インシデントによる早急な改善策や注意喚起、周知を図るためリスクマネジメントニュースを発行している。 ・ 病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。 ・ 報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> (3名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> (1名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (10) 名 ・ 活動の主な内容： (医療安全管理部) <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関する事。 (2) 重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。 (3) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。 (4) 医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関する事。 (5) 改善策を立案すること。 (6) 改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 (7) 安全管理に関する教育・研修に関する事。 (8) 安全管理に関する連絡調整に関する事。 (9) その他安全管理に関する事。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方2. 院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染の発生及びその感染経路の調査に関すること2. 感染予防に係る情報の収集に関すること3. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること4. 感染症発生時の措置に関すること5. 院内職員の教育及び啓発に関すること6. 消毒剤等の使用に関すること7. その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年28回
<p>・研修の主な内容：全職員を対象に下記のテーマで合計28回開催した</p> <ul style="list-style-type: none">・給食業務における衛生管理-安全な食を提供するには-・標準予防策-感染対策の基本-・HIV感染症の最近の話題・新しい感染症マーカー：プレセプシンについて・HIV感染症・AIDS患者の看護-外来・病棟での看護について-・入院中の発熱-発熱時の基本的な考え方について-・誤嚥性肺炎の診断と予防-嚥下機能、耳鼻科的な評価の仕方など-・病院職員の健康管理・関節の発赤・腫脹を認めたらどうするか？-整形外科に紹介する前に考えるべき事-・カルバペネマーゼ産生菌・血液培養の重要性・カテーテル感染・針刺し・切創・粘膜曝露の実態について・風疹について・インフルエンザとノロウイルス・多剤耐性菌出現のしくみ・B型肝炎・感染対策・診療の最良基準・抗菌薬の適正使用について・黄色ブドウ球菌の怖さ・原虫感染症について・MRSA感染症・嘔吐・下痢で始まる感染症・針刺し・切創・粘膜曝露の実態について・敗血症について・眼の病気と全身感染症・2014年検出菌について・口腔ケアの必要性について <p>その他、研修医、新採用看護師に対しても実施した</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 感染情報レポートは、週報(毎週1回)、月報(毎月1回)、年報(毎年1回)作成し、感染症法に基づく病原体(MRSA、ペニシリン耐性肺炎球菌、感染性胃腸炎の病原菌、薬剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクターなど)、β-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性ヘモフィルス、3世代セフェム耐性基質拡散型β-ラクターゼ産生菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、流行時期に応じてインフルエンザ、ノロウイルスなどの検出状況を示している。
 2. MRSAについては、サーベイランスを行い、感染と保菌、院内発生と持込を診療科別、病棟別に示している。
 3. これらの情報は、ベースラインを把握し、菌検出状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
 4. ICTに報告が必要な病原体として、血液培養陽性、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、バンコマイシン耐性腸球菌、基質拡散型β-ラクターゼ産生菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、下痢および嘔吐、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・带状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
 5. 診療科、病棟、外来、検査部からICTに報告があれば、
 - ① ICTは直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する
 - ② 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
 - ③ 接触者(患者、面会者、医療従事者)を確認し、必要な予防策を講じる
 - ④ 医師、看護師、ICT合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
 - ⑤ 随時感染制御部長から病院長(感染対策委員長)に報告する
 - ⑥ 診療科、病棟から所属長に報告する
 - ⑦ 必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
 6. 週1回、感染対策ラウンド
 7. 週1回、感染症カンファレンス
 8. 感染対策ニュースの発行
 9. 全部署の速乾性手指消毒薬使用量のモニタリング

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9回
・ 研修の主な内容： 1. 麻薬・向精神薬の使い方（対象：研修医） 2. 静脈注射に関する注意点について（対象：2年目以降の看護師） 3. 消毒薬を正しく使うための基礎知識（看護と薬 教育・研修セミナー、対象：全職員） 4. 抗菌薬の適正使用について（感染対策研修会、対象：全職員） 5. 医薬品安全管理にかんする情報提供（安全・安心な医療5回開催、対象：全職員）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項 4. 患者に対する与薬や病棟薬剤業務・薬剤管理指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 院内特殊製剤の取扱いに関する事項 7. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関する事項 8. 医薬品安全性情報等の管理体制の充実に関する事項 9. 放射性医薬品の取扱いに関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. IMIS掲示板及び全学グループウェアの掲示板 2. 院内通知文書 3. 医薬品・医療機器等安全性情報の発行 4. 病棟薬剤業務連絡会 5. DIニュースの発行 6. 各種勉強会、講習会等	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年約100回
<p>・研修の主な内容： 全職員、新人看護師、研修医等を対象として、安全使用において技術の習得が必要と考えられる機器の適正な使用方法に関する研修、インシデント対策に関する研修及び新規導入機器の導入に関する研修を実施。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 (有・無) ・保守点検の主な内容： 安全使用において、特に技術の習得が必要と考えられる機器を含む人工呼吸器、人工心肺装置、輸液ポンプ等の定期点検、日常点検を実施し、機器管理システムにて機器名、製造番号、点検・修理履歴、保守点検予定日等を機器毎にシステム管理を行っている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 使用部署に取扱説明書を整備。 医療機器製造販売業者から収集した安全情報は、病院の電子掲示板に掲示することで情報の周知を図っている。また、緊急を要する場合は、直接関係部署等に出向き説明を行い情報の周知を行っている。さらに、院内で発生した医療機器のインシデント報告に対しても、その安全対策、対応策の検討し周知し実施している。 院内で確認された医療機器の不具合については、病院管理者への報告を行い、必要に応じて医薬品医療機器総合機構（PMDA）に医療機器安全情報として報告を行うようにしている。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成21年12月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 高知大学医学部附属病院ホームページ内の「患者さんへ」、「広報活動」、「病院案内」において、情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 *がん治療センター 複数の診療科で行われている「がん診療」や「緩和ケアチーム」「外来化学療法」などを一元的に管理し、それぞれの機能が充分発揮されるよう企画調整を行っている。 *光学医療診療部 各疾患分野で内視鏡を用いた診断と治療を専門に行う部門を独立統括し、各診療科との連携を円滑にすることで、内視鏡を用いた専門的な診断と治療の需要に柔軟に対応している。	



(様式第8)

高大医医第28号
平成27年

厚生労働大臣 殿

高知大学医学部附属病院長 横山 彰仁

高知大学医学部附属病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過

標記について、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の20第6号口及び第7号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 ②標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
院内で救急患者の受入れに関するワーキンググループを組織して検討を行った結果、救急診療専従の医師について増員を図り、平成27年度中に救急科を標榜する予定としている。	H27.4.1から救急科を標榜した。

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第8として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

--

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。